

平成27年度 事業報告書

目次

I 事業総括	1
II 事業報告	
1 調査啓発事業	2
2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業	4
3 資源化事業	6
(1) 剪定枝等処理事業	6
(2) びん・缶・ペットボトル選別事業	8
(3) 施設管理受託事業	10
① ごみ資源化工場施設管理事業	10
② 中沼プラスチック選別センター施設管理事業	14
③ 中沼雑がみ選別センター施設管理事業	16
④ 札幌市リサイクル団地管理事業	18
(4) 大型ごみ収集センター管理運営事業	20
4 事業系ごみ収集運搬事業	22

I 事業総括

平成27年度は、各事業とも概ね当初計画通りの事業運営を行った。

収支状況については、事業系ごみ収集量（m³）や、剪定枝等処理事業の受入量が当初計画を上回ったことなどにより、当初予算と比較し収支が改善した。

課題となってきた設備等の老朽化への対応については、資源選別センターでの設備等の更新、及び事業系ごみ収集運搬事業における「業務管理システム」の更新を行った。新しい「業務管理システム」は、27年度末までに開発に係る工程を終え、4月より本格稼働している。

また、重点項目の一つでもある「事業系ごみ収集運搬事業の効率化」については、新設した業務推進室で効率化実施に向けた諸課題の検証を行いながら取組を進めている。

重点項目の実施結果

(1) 事業系ごみ収集運搬事業の効率化

各収集車両の収集ルートの見直しなどにより、一般ごみの収集車両が2台減少した。

(2) 設備・システムの計画的な更新・保全

資源選別センターでは、施設整備計画に沿い、コンベア等のプラント設備の更新を行った。また、平成26年度より進めてきた事業系ごみ収集運搬事業における「業務管理システム」については、開発工程が終了し、本年4月より新システムの運用を開始している。

(3) 新たなリサイクルへの研究開発

札幌市、近畿大学とのバイオコークスの事業化に向けた共同研究や、篠路資源化工場の現行成形機に代わる省エネ型成形機による固形燃料の試験製造など、リサイクルに関する調査研究を行った。

(4) 顧客や市民への積極的な情報発信と多様なニーズへの対応

引越しごみ（一時多量ごみ）については、市民ニーズに十分に対応しきれない現状であることから、受付から収集までの一連の収集体制についての見直しを行い、専用の収集車の導入などフレキシブルな対応が可能となる体制の整備を進めている。

(5) 事務・事業の見直し及び経費の節減

電気料金の値上げが行われる中、更なる節電対策として、中沼資源選別センターにおいて、施設内の蛍光灯及び水銀灯をLED灯に変更した。

Ⅱ 事業報告

1 調査啓発事業 (決算額 56,705,712 円)

(1) 調査研究事業

① バイオコークスに関する調査研究

札幌市内から排出される「枝・葉・草」及び「剪定枝」等の植物系バイオマスの有効利用を図るため、札幌市、近畿大学とバイオコークスの事業化に向けた共同研究を平成 25 年度から実施している。平成 27 年度は、旧篠路清掃工場のテストプラントを利用して、原料の前処理とバイオコークス製造に関する実証試験を行った。

また、「剪定枝」を原料としたバイオコークスの燃焼試験を実施し、支障なく燃焼することを確認した。

② 固形燃料に関する調査研究

札幌市から施設管理業務を受託しているごみ資源化工場は、運転開始から 25 年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいる。平成 27 年度は、現行の成形機と比較し使用電力量が少ない省エネ型成形機のテスト機で、「木くず・紙くず・廃プラ」の他、「剪定枝」や「枝・葉・草」を原料とした固形燃料を試験製造し、成分分析を行った。

テスト機が、現行の固形燃料（RDF）同等の製品を製造できることを確認した。

③ ごみ重量計量システムに関する調査研究

平成 23 年度から重量計量システムを搭載した収集車両を順次導入し、3 ヶ年余に渡り、業種別、事業所別のごみ排出量、比重等についてのデータを収集・蓄積した。

平成 27 年度は、これらのデータの分析を始め、計量精度、作業時間や制度上の課題について整理を行ったほか、他都市の事業系ごみの課金実態の調査を行った。

(2) 普及啓発活動

ごみ減量及びリサイクル、公社の事業内容についてホームページや各種イベントにより普及・啓発を行った。

① 広報活動

i) 公社の事業方針、事業計画及び実績等を取りまとめた「事業概要」280 部を平成 27 年 10 月に発行し、関係機関等に配付した。

ii) 各リサイクル施設で実施する資源物等の組成調査、固形燃料の成分分析等及び調査研究結果を取りまとめた「平成 26 年度データ集」150 部を平成 27 年 12 月に発行し、関係機関等に配付した。

iii) 公社が収集運搬を行う事業系ごみの分別やリサイクルに関する取組等を紹介した情報誌「アンパス第 14 号」6,500 部を平成 28 年 2 月に発行し、顧客等に配付した。

iv) 市内小学校の 4 年生全員に環境学習の参考資料として、びん・缶・ペットボトルの選別とリサイクルを紹介した「キッズパンフレット」16,000 部を提供した。

v) ホームページを適宜改定し、ごみの減量・資源物のリサイクル推進、事業系ごみの収集運搬に係る情報などを発信した。

② 各種イベントへの参加

i) 市民の環境意識向上等を目的としたイベント「環境広場さっぽろ 2015」に出展し、びん・缶・ペットボトル選別事業の紹介を行った。

ii) ビルメンテナンス事業者等を対象としたイベント「ビルメンヒューマンフェア 2015 in 北海道」に出展し、資源化ごみのリサイクル等に関する事業紹介を行った。

iii) 「かんきょうみらいカップ 2015」、「さっぽろこども環境コンテスト 2015」等のイベントに協賛するとともに、雑誌等の各種広告媒体を活用し、ごみ減量やリサイクル等の普及啓発を行った。

③ 見学者の施設案内

ごみの適正処理やリサイクルの普及活動として各施設への見学者を受け入れている。

平成 27 年度は、市内の小学 4 年生で「ごみ・リサイクル」を学習するカリキュラムの見学者を含めて 5,731 名を受け入れた。

2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 (決算額 54,569,360円)

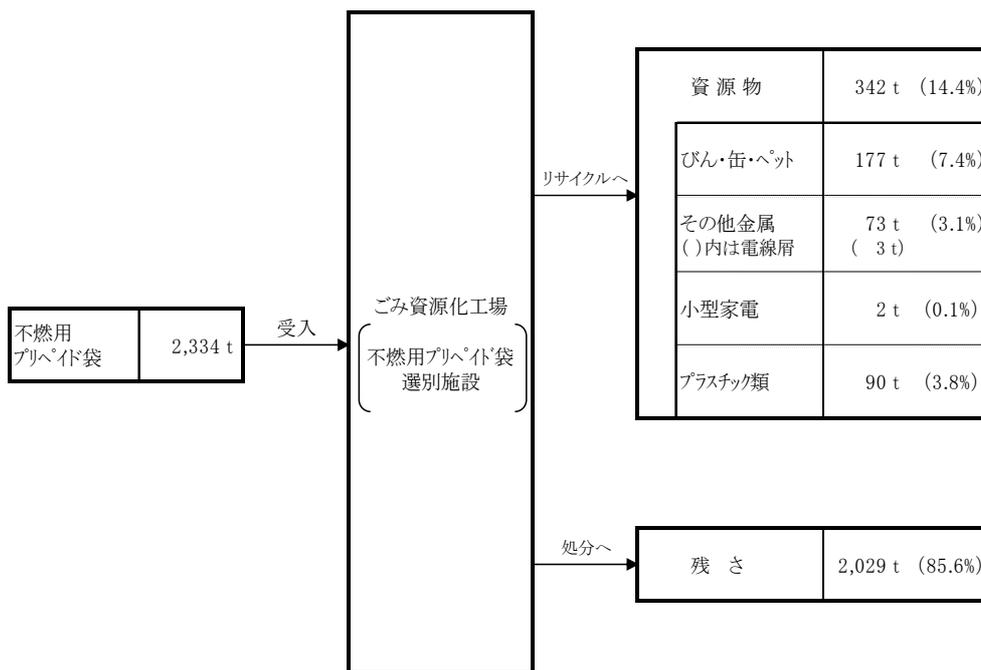
本事業では、札幌市内の少量排出事業所から排出される不燃用プリペイド袋に混入しているびん・缶・ペットボトルなどを選別し、埋立量の低減及びリサイクルを推進している。

◇ 処理実績

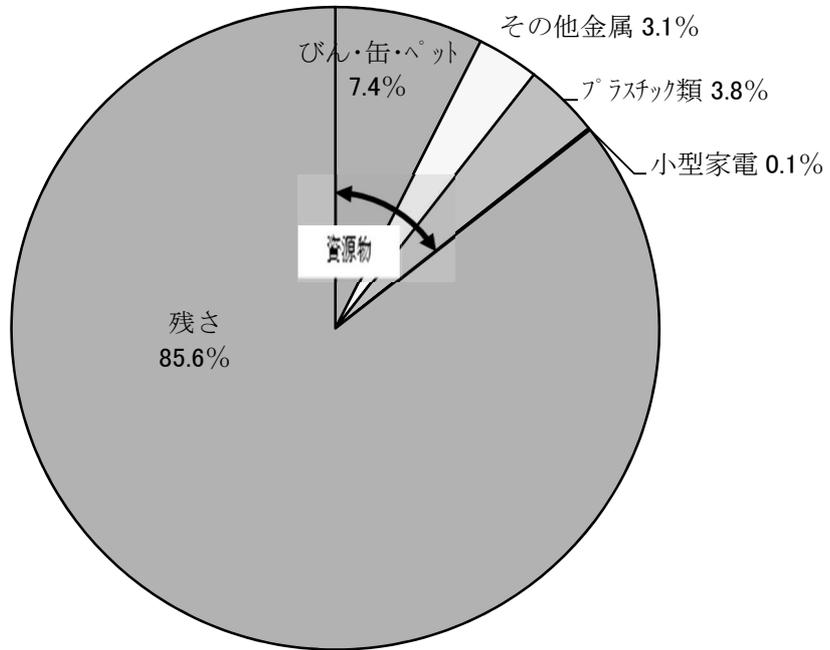
平成27年度の不燃用プリペイド袋受入量は、計画量2,400tに対し2,334tで、前年度2,335tと同程度の受入量であった。搬出量は2,371tで、資源物342tを選別した。

不燃用プリペイド袋に混入しているびん・缶・ペットボトルは選別後、リサイクル業者に引き渡し、一斗缶等のその他金属及び小型家電は業者へ売却、ビニール類等の軟質系プラスチック類は固形燃料の原料として再資源化を図った。

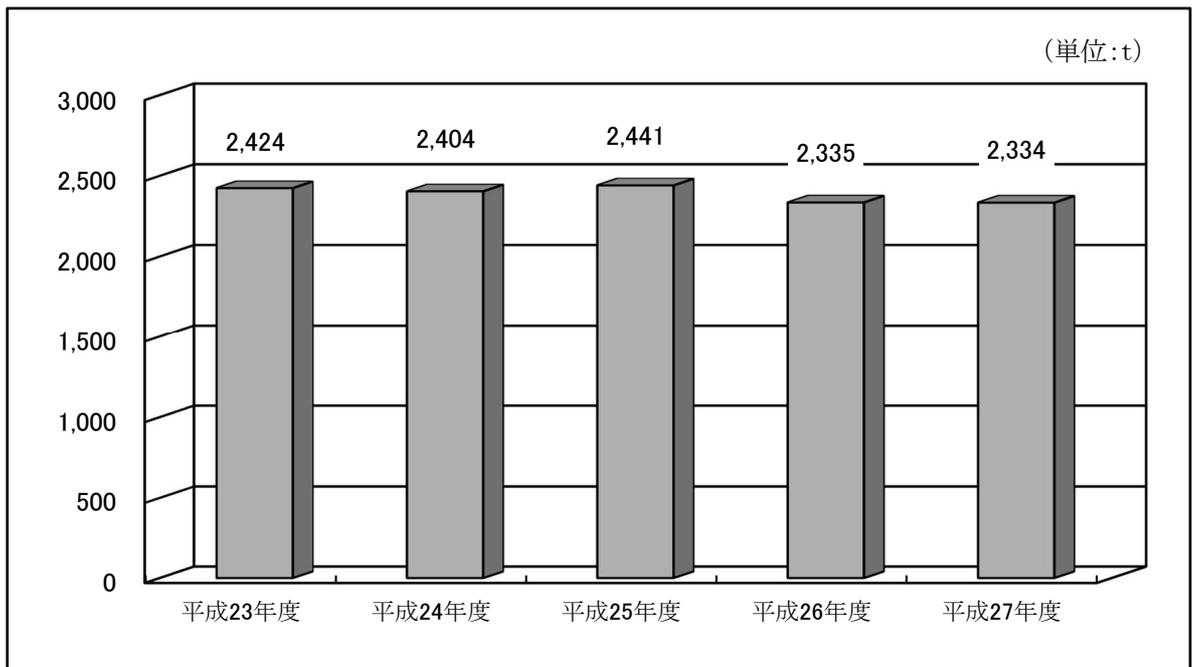
【図2-1 平成27年度 不燃用プリペイド袋処理実績フロー図】



《グラフ 2-1 平成 27 年度 資源物・残さ搬出割合》



《グラフ 2-2 不燃用プリペイド袋受入量 (年度別)》



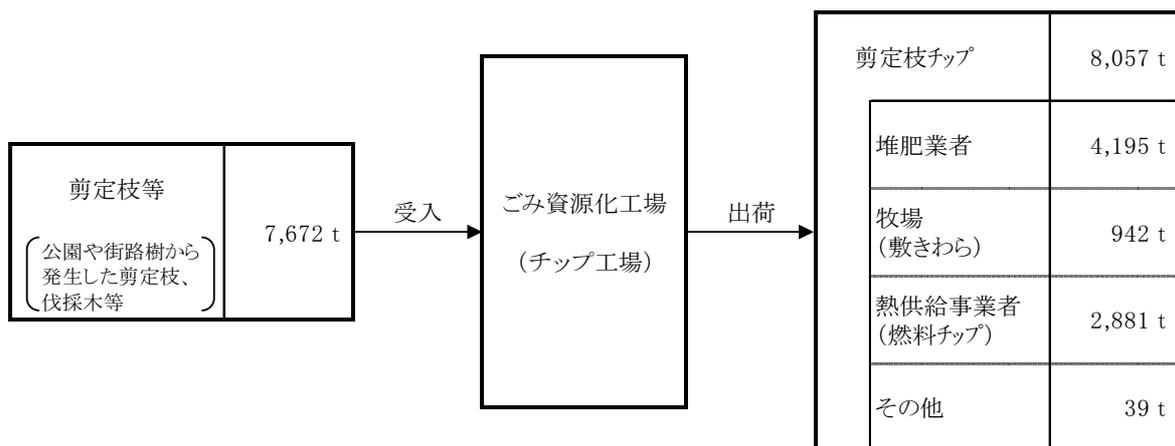
3 資源化事業 (決算額 1,201,832,434 円)

(1) 剪定枝等処理事業 (決算額 53,596,101 円)

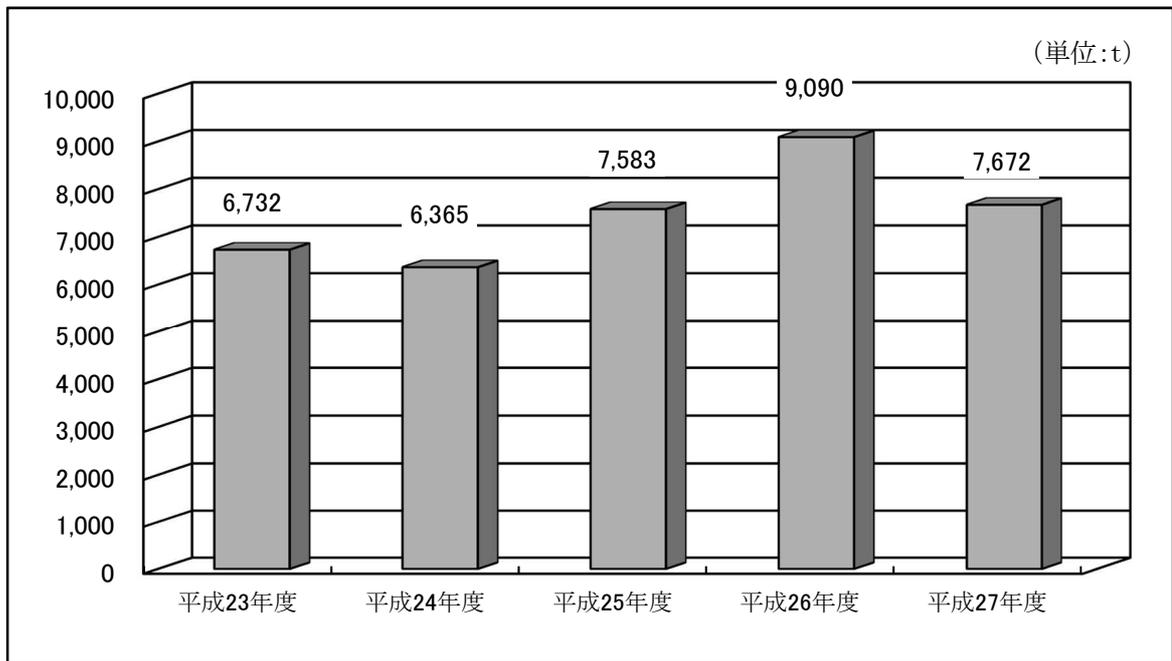
本事業は、当会社の自主事業で、札幌市内の公園や街路樹等から発生した剪定枝、伐採木等を、チップ工場破碎施設で約 45mm の大きさのチップに加工して、堆肥や畜舎の敷きわらなどとしてリサイクル業者及び酪農家に販売している。

平成 27 年度の剪定枝等受入量は、計画量 6,500t に対し 7,672 t で、前年度 9,090 t に比べ 15.6% の減少、また、剪定枝等チップの出荷量は、計画量 6,000t に対し 8,057 t で、前年度 7,991 t に比べ 0.8% の増加となった。

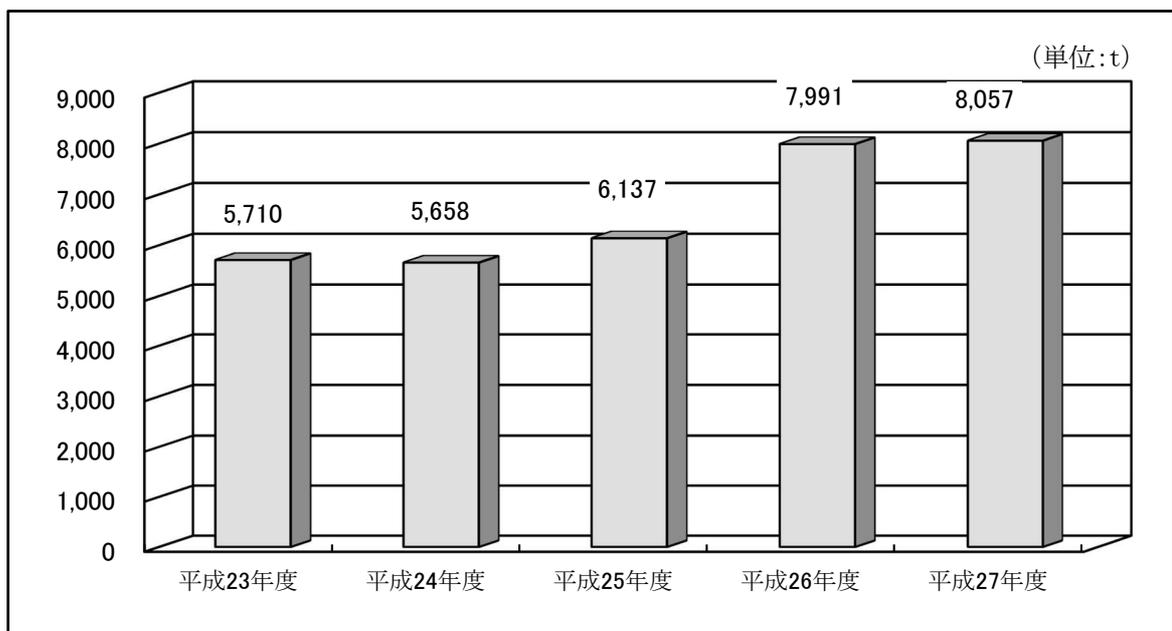
【図 3-1 平成 27 年度 剪定枝等処理実績フロー図】



《グラフ 3-1 年度別剪定枝等受入量》



《グラフ 3-2 年度別チップ出荷量》



(2) びん・缶・ペットボトル選別事業 (決算額 984,277,157円)

平成27年度の資源物の全体受入量は、計画量36,780tに対し35,698t(家庭系34,106t、事業系1,592t)であり、選別搬出された資源物は計画量26,553tに対し、びん類12,397t(白びん4,850t、茶びん4,094t、その他びん3,453t)、缶類6,243t(アルミ缶3,642t、スチール缶2,601t)、ペットボトル7,108tの合計25,748tであった。

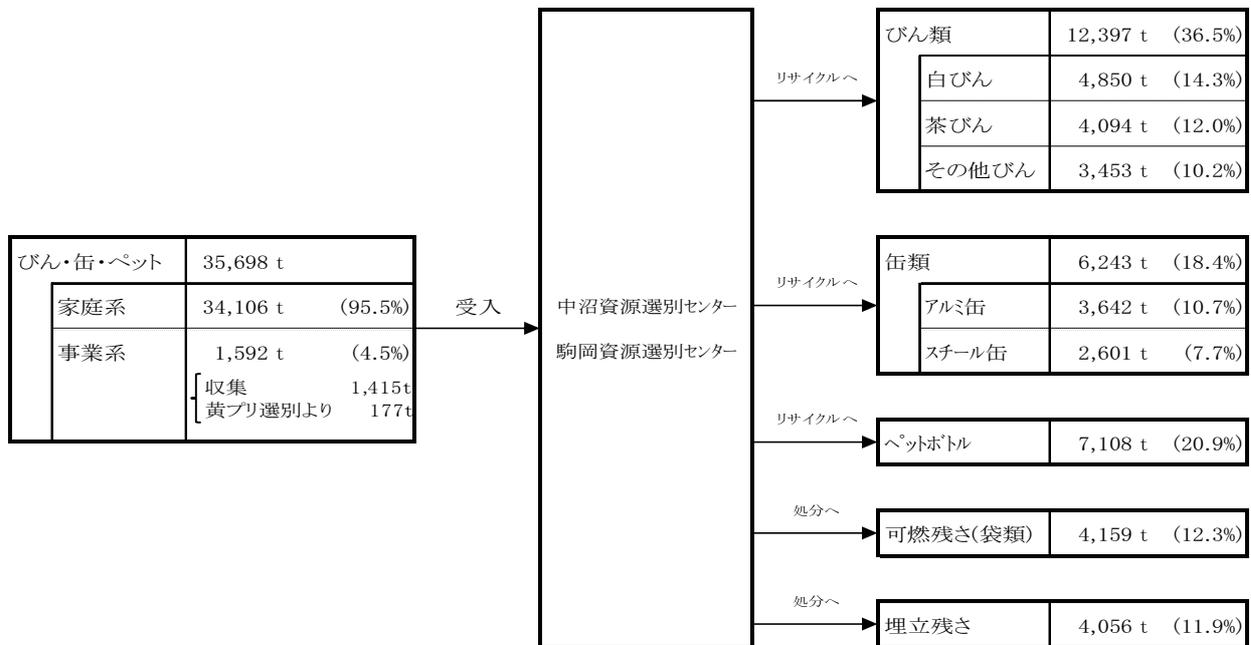
また、平成27年度は3,816人の見学者を迎え、施設の見学及びリサイクルの情報提供を通してびん・缶・ペットボトルリサイクルの啓発を行った。

選別された資源物は、次のようにリサイクルを図った。

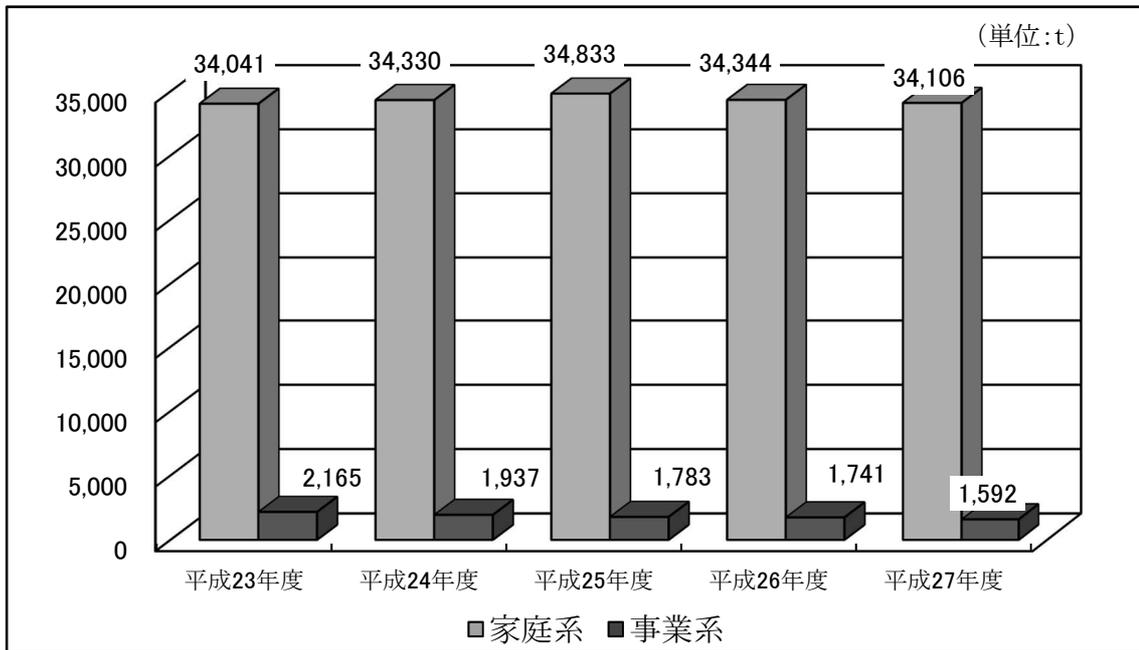
- ① びん類については、白・茶・その他びんに分け、家庭系(市)のものは指定法人ルートで、事業系(公社)のものは直接リサイクル事業者へ引き渡し、それぞれ再生利用を図った。
- ② 缶類については、家庭系(市)及び事業系(公社)ともに、リサイクル事業者へ引き渡し再生利用を図った。
- ③ ペットボトルについては、家庭系(市)のものは指定法人ルートで、事業系(公社)のものは直接リサイクル事業者へ引き渡し再生利用を図った。

なお、駒岡資源選別センターの手選別業務については、知的障がい者に雇用の場を提供するために福祉団体に業務を委託している。

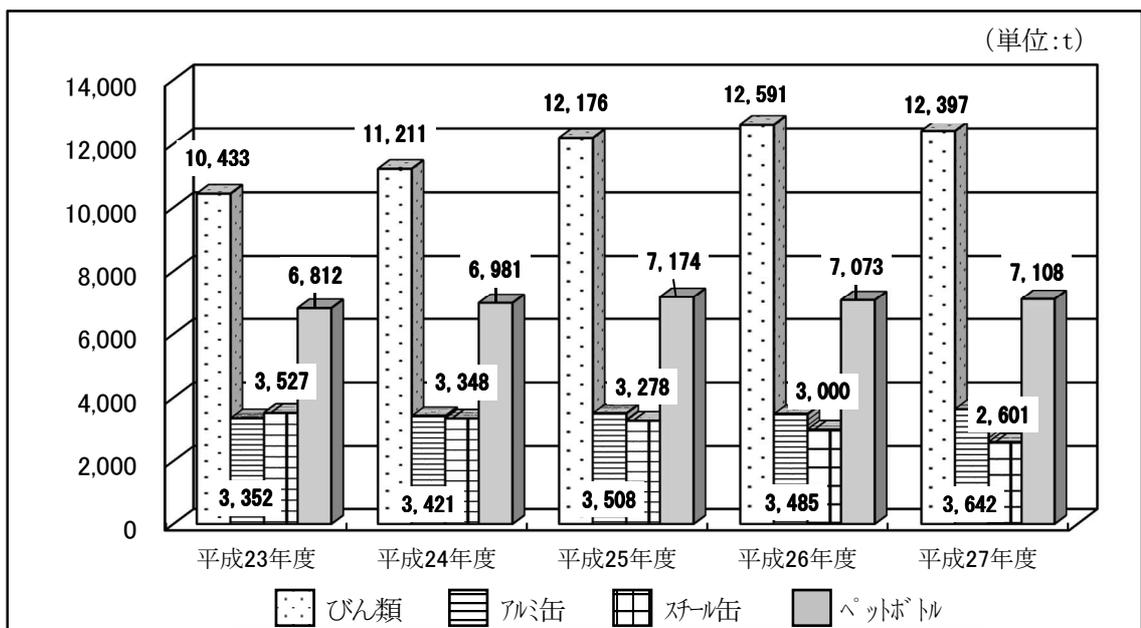
【図3-2 平成27年度 びん・缶・ペットボトル選別センター選別実績フロー図】



《グラフ 3-3 びん・缶・ペット受入量（年度別）》



《グラフ 3-4 資源物搬出量（年度別）》



(3) 施設管理受託事業 (決算額 142,388,936円)

平成27年度は、札幌市の5施設の施設管理(総括管理)業務を受託し、同市のごみ処理計画及び運転・運搬計画等に基づき、次の事業を実施した。

① ごみ資源化工場ほか施設管理事業 (決算額 67,864,617円)

ごみ資源化工場は、札幌市の処理計画に基づき、主に事業系の木くず、紙くず、廃プラスチックを選別破碎後、圧縮成形して固形燃料(RDF)を生産している。

当社は、ごみ資源化工場の施設運営に係る監督等の総括管理業務及び搬入ごみの計量業務を含む施設の運営全般の管理業務を札幌市からの受託事業として実施した。

また、平成25年度から、家庭系の大型ごみや事業系の建設廃材等を受け入れし、破碎・選別を行っている篠路破碎工場及び破碎工場付帯施設の運営全般の管理業務を札幌市からの受託業務として実施している。

◇ ごみ資源化工場処理実績

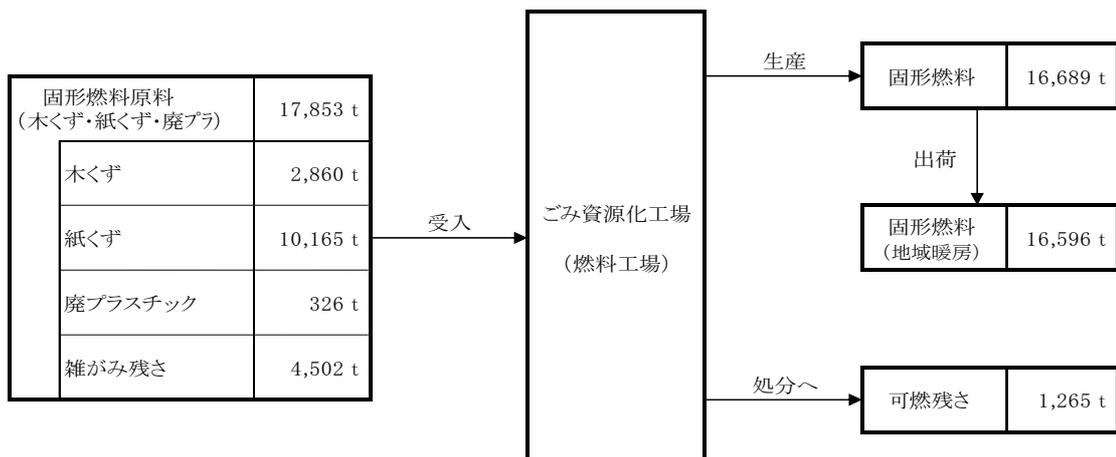
平成27年度のごみ受入量は、計画量19,000tに対し17,853tで、前年度19,023tに比べ6.2%の減少となった。受入量の内訳は、木くずが2,860t、紙くずが10,165t、廃プラスチックが326t、雑がみ残さが4,502tであった。

固形燃料の出荷量は、計画量18,430tに対し16,596tで、前年度19,344tに比べ14.2%の減少となった。また、生産した固形燃料は、北海道地域暖房株式会社に出荷した。

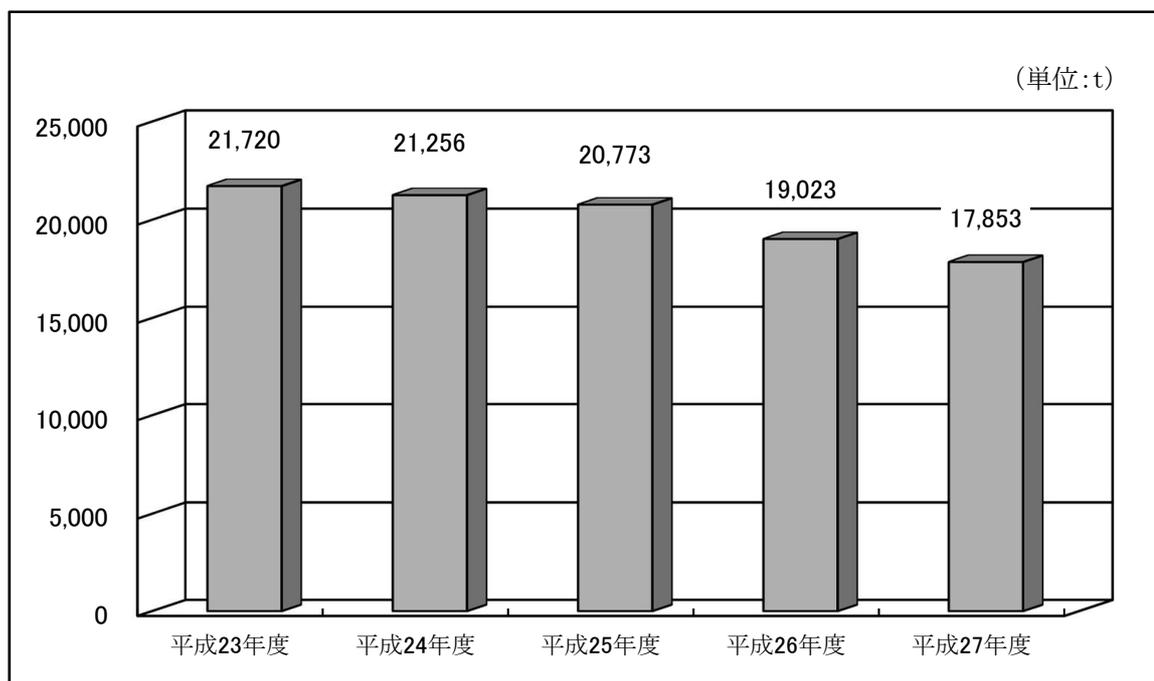
(受入量及び出荷・処分量)

・ごみ受入	17,853 t	15,058 台	〔 一般廃棄物： 11,996 台 産業廃棄物： 3,062 台 〕
・固形燃料出荷	16,596 t	1,970 台	
・残さ処分	1,265 t	318 台	

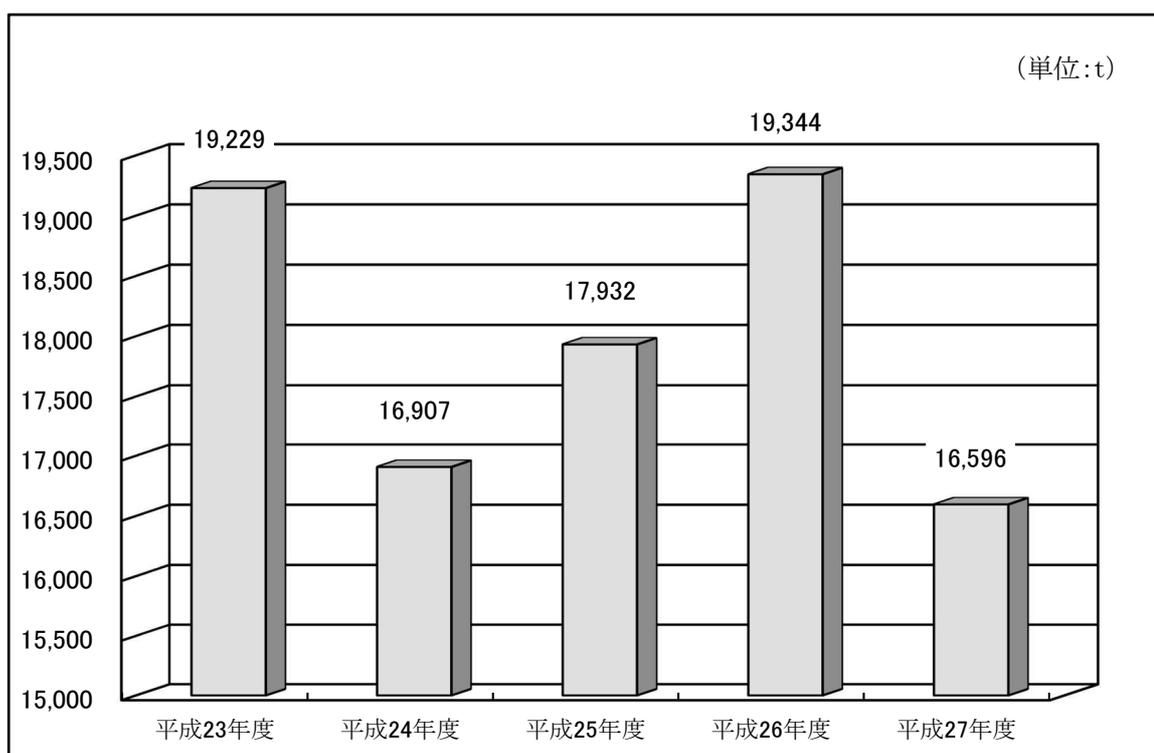
【図3-3 平成27年度 ごみ資源化工場処理実績フロー図】



《グラフ 3-5 ごみ資源化工場受入量（年度別）》



《グラフ 3-6 固形燃料出荷量（年度別）》



◇ 篠路破碎工場 処理実績

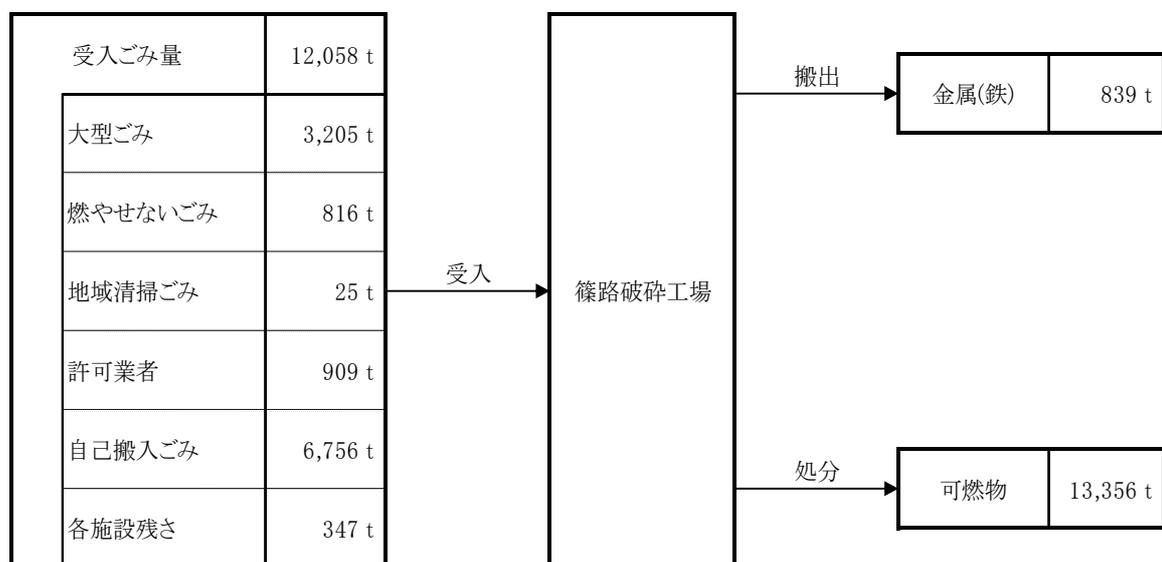
平成 27 年度の篠路破碎工場ごみ受入量は、発寒破碎工場の火災復旧整備が終了し、受入を再開したことにより、計画量 14,000t に対し 12,058 t で、前年度実績 18,852 t に比べ 36.0%の減少となった。受入量の内訳は、大型ごみが 3,205 t、燃やせないごみが 816 t、地域清掃ごみが 25 t、許可業者が 909t、自己搬入ごみが 6,756 t、各施設残さが 347t であった。

搬出量は 14,195t で内訳は、金属(鉄)が 839t、可燃物が 13,356t であった。

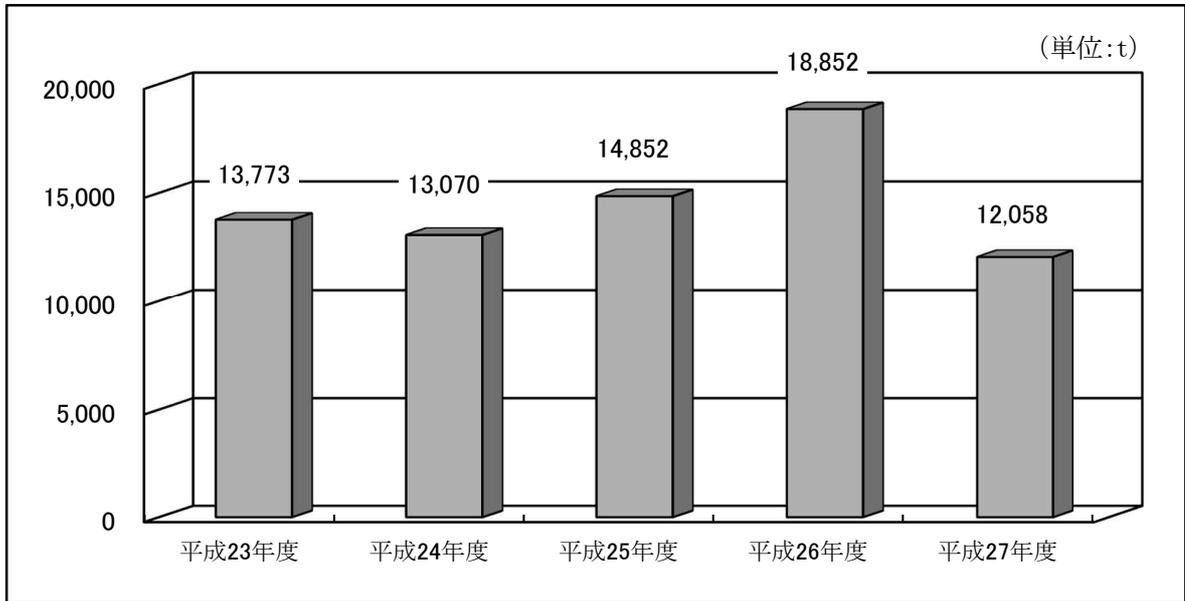
(受入量及び搬出・処分量)

- ・ごみ受入 12,058 t 25,102 台
- ・金属(鉄)搬出 839 t 119 台
- ・可燃物処分 13,356 t 3,740 台

【図 3-4 平成 27 年度 篠路破碎工場処理実績フロー図】

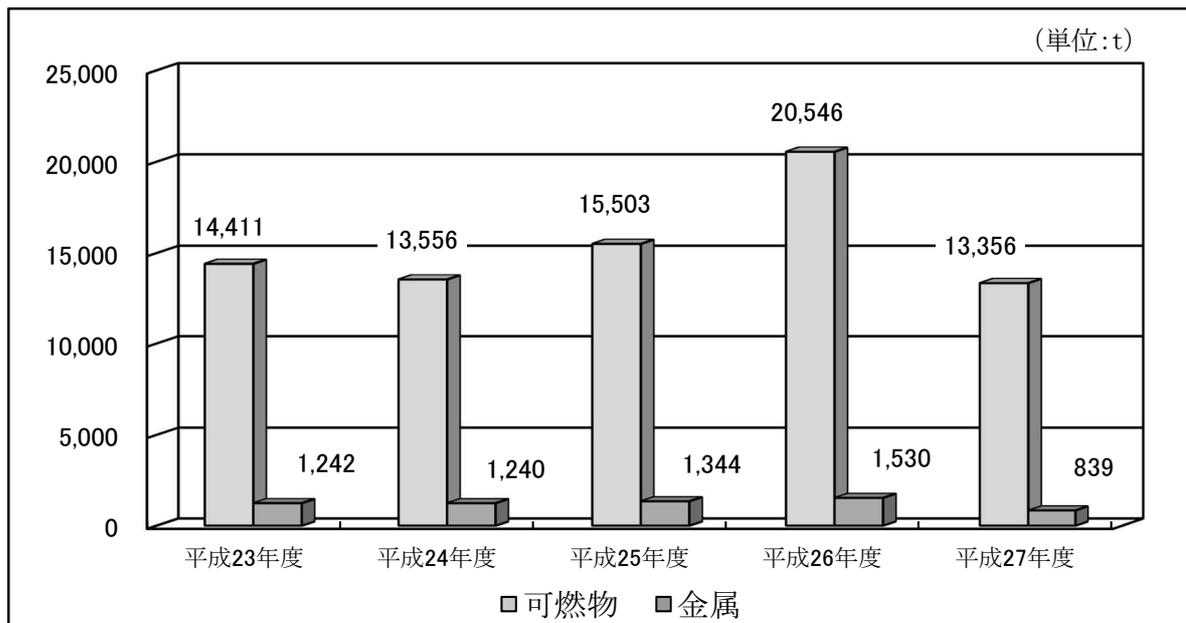


《グラフ 3-7 篠路破碎工場受入量（年度別）》



※ 平成 24 年度までは札幌市による運営管理

《グラフ 3-8 篠路破碎工場搬出量（年度別）》



※ 平成 24 年度までは札幌市による運営管理

② 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 (決算額 36,501,282 円)

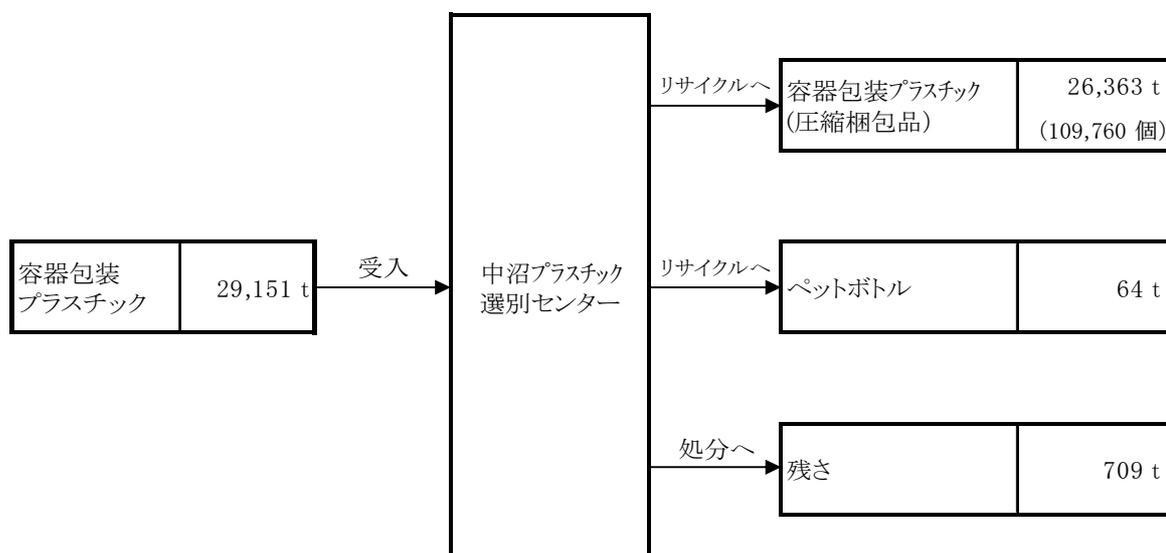
中沼プラスチック選別センターは、札幌市の処理計画に基づき、容器包装プラスチックを選別後、圧縮梱包して再商品化事業者に引き渡しを行っている。

当社は、札幌市から別途発注された施設の運転などに対する監督、選別・圧縮された容器包装プラスチックの品質管理、再商品化事業者等との調整及び引渡し業務を札幌市からの受託事業として実施した。

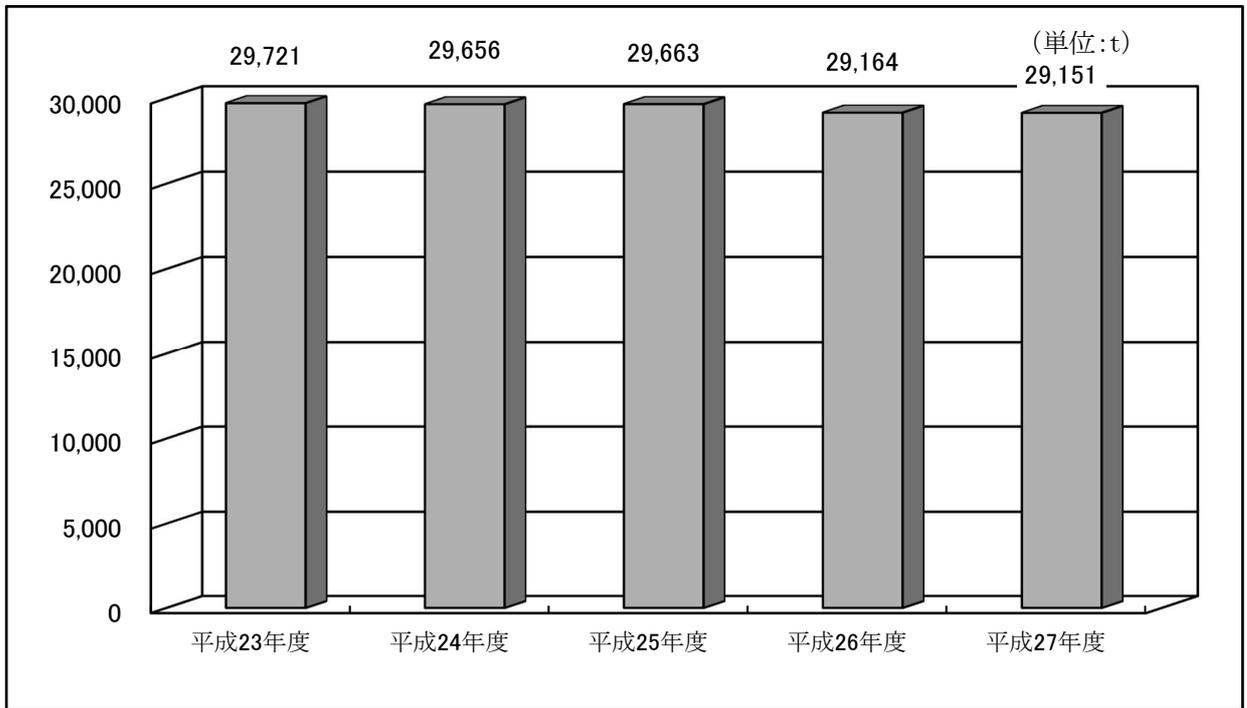
平成 27 年度の容器包装プラスチック受入量は、計画量 31,100 t に対し 29,151 t で、前年度 29,164 t と同程度の受入量となった。また、選別後に圧縮梱包されて再商品化事業者等に引き渡された分別基準適合物の量は、計画量 28,800 t に対し 26,363 t で前年度 26,084 t に比べ 1.07% の増加となった。

また、平成 27 年度は 1,801 人の見学者を迎え、施設の見学及びリサイクルの情報提供を通してプラスチックリサイクルの啓発を行った。

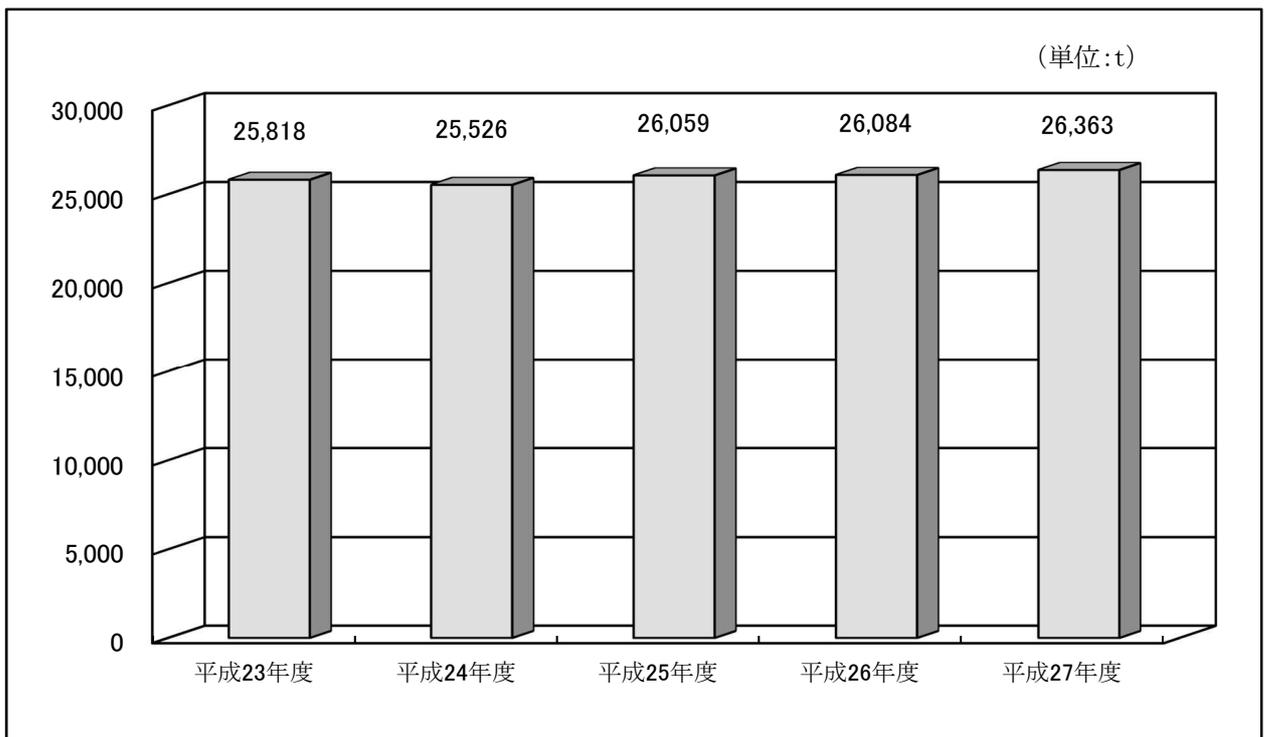
【図 3-5 平成 27 年度 中沼プラスチック選別センター処理実績フロー図】



《グラフ 3-9 容器包装プラスチック受入量（年度別）》



《グラフ 3-10 容器包装プラスチック(圧縮梱包品)搬出量（年度別）》



③ 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (決算額 17,059,818 円)

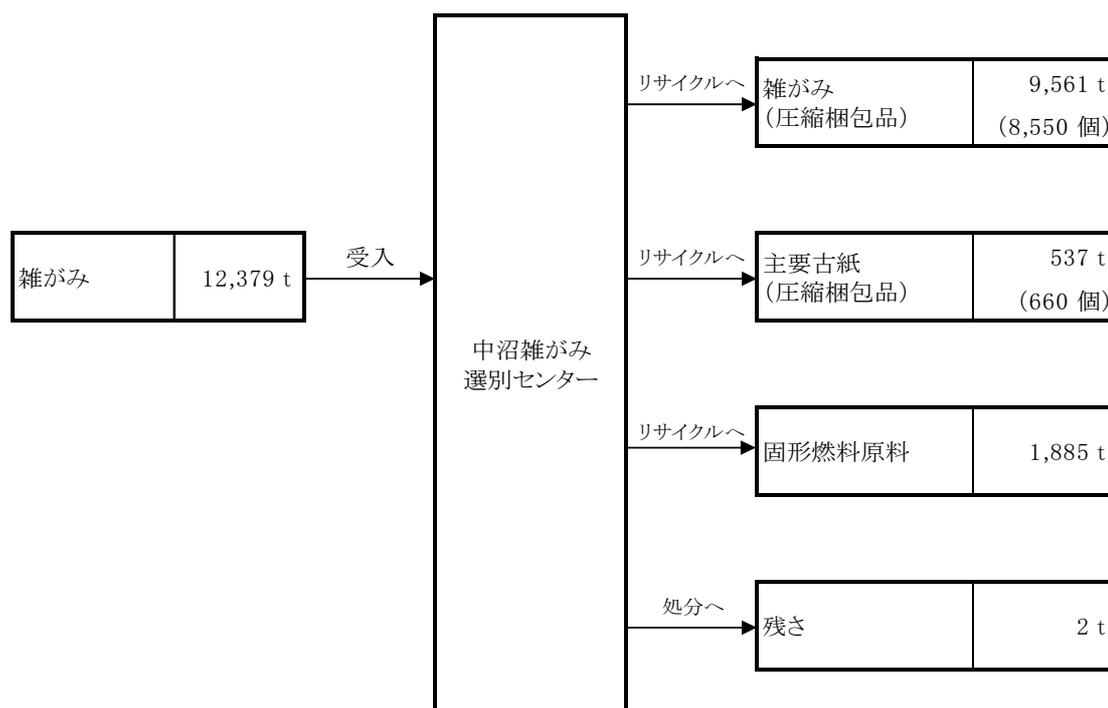
中沼雑がみ選別センターは、札幌市の処理計画に基づき、雑がみと主要古紙を選別後、圧縮梱包してリサイクル事業者に引き渡しを行っている。

当社は、札幌市から別途発注された施設の運転などに対する監督、選別・圧縮された雑がみと主要古紙の品質管理、リサイクル事業者等との調整及び引渡し業務を札幌市からの受託事業として実施した。

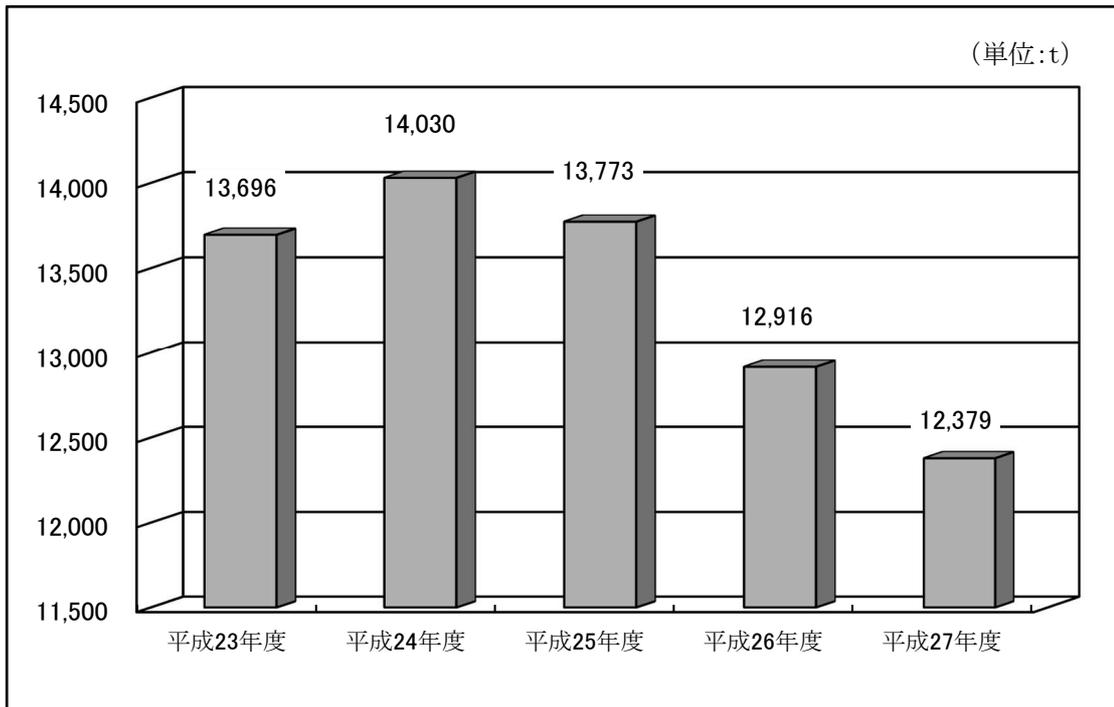
平成 27 年度の雑がみ受入量は、計画量 14,600 t に対し 12,379 t で、前年度 12,916 t に比べ 4.2% の減少となった。

また、選別後に圧縮梱包されてリサイクル事業者に引き渡された雑がみは、計画量 10,800 t に対し 9,561 t で、前年度 9,783 t に比べ 2.3% の減少、また主要古紙は、計画量 900 t に対し 537 t で、前年度 619 t に比べ 13.2% の減少となった。

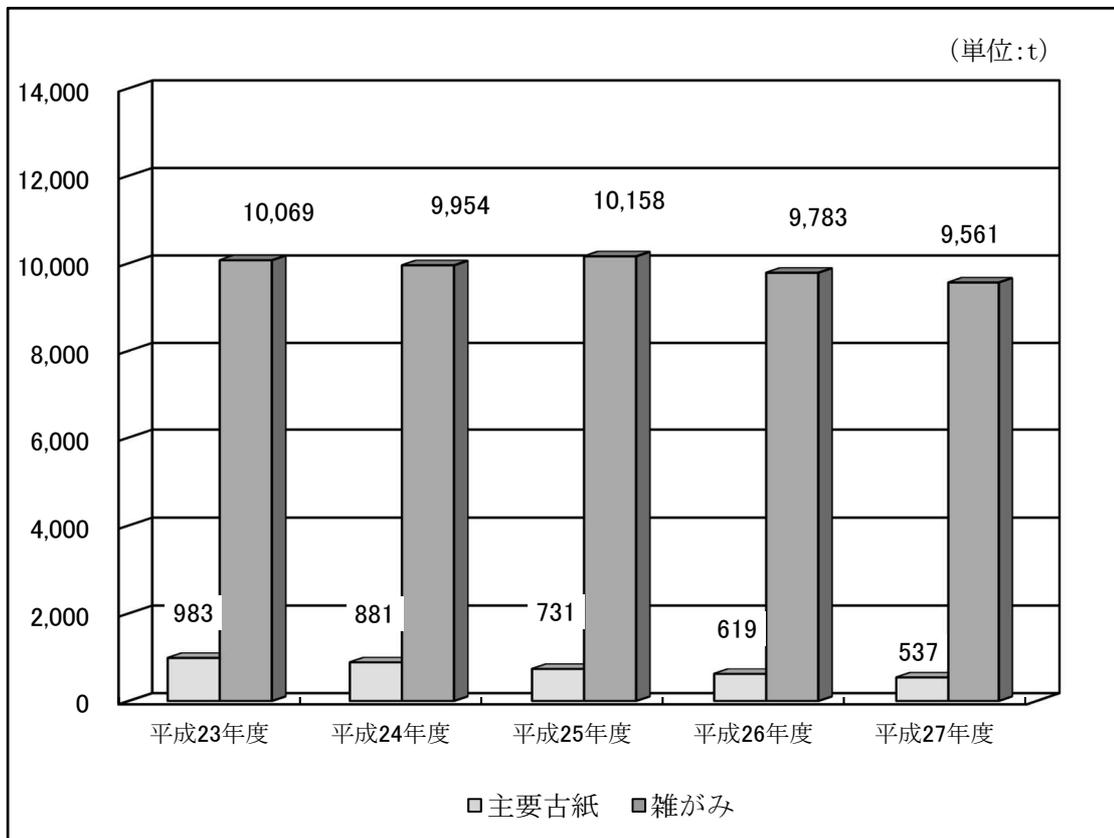
【図 3-6 平成 27 年度 中沼雑がみ選別センター処理実績フロー図】



《グラフ 3-11 雑がみ受入量 (年度別) 》



《グラフ 3-12 雑がみ等搬出量 (年度別) 》



④ 札幌市リサイクル団地管理事業 (決算額 20,963,219 円)

札幌市リサイクル団地は、廃棄物の減量・リサイクルを総合的に推進するモデル的な廃棄物の処理施設群で、団地の基盤整備については、札幌市が平成6年から平成8年にかけて行い、処理施設の建設・運営は、民間処理業者、第三セクター及び札幌市の3事業主体がそれぞれ行っている。

現在、約23haの団地内に、民間処理業者6社、当公社、及び札幌市の9施設が稼働している。

当公社は、リサイクル団地参入企業間の連絡調整、共用施設や団地内道路の維持管理等の業務を札幌市からの受託事業として実施した。

i) 業務内容

- ア リサイクル団地の連絡調整・見学対応等業務
- イ リサイクル資料館・ふれあいホールの維持管理業務
- ウ 井水供給設備の維持管理業務
- エ リサイクル団地内市道の点検、清掃、除排雪業務
- オ リサイクル団地協議会の開催
- カ その他管理業務

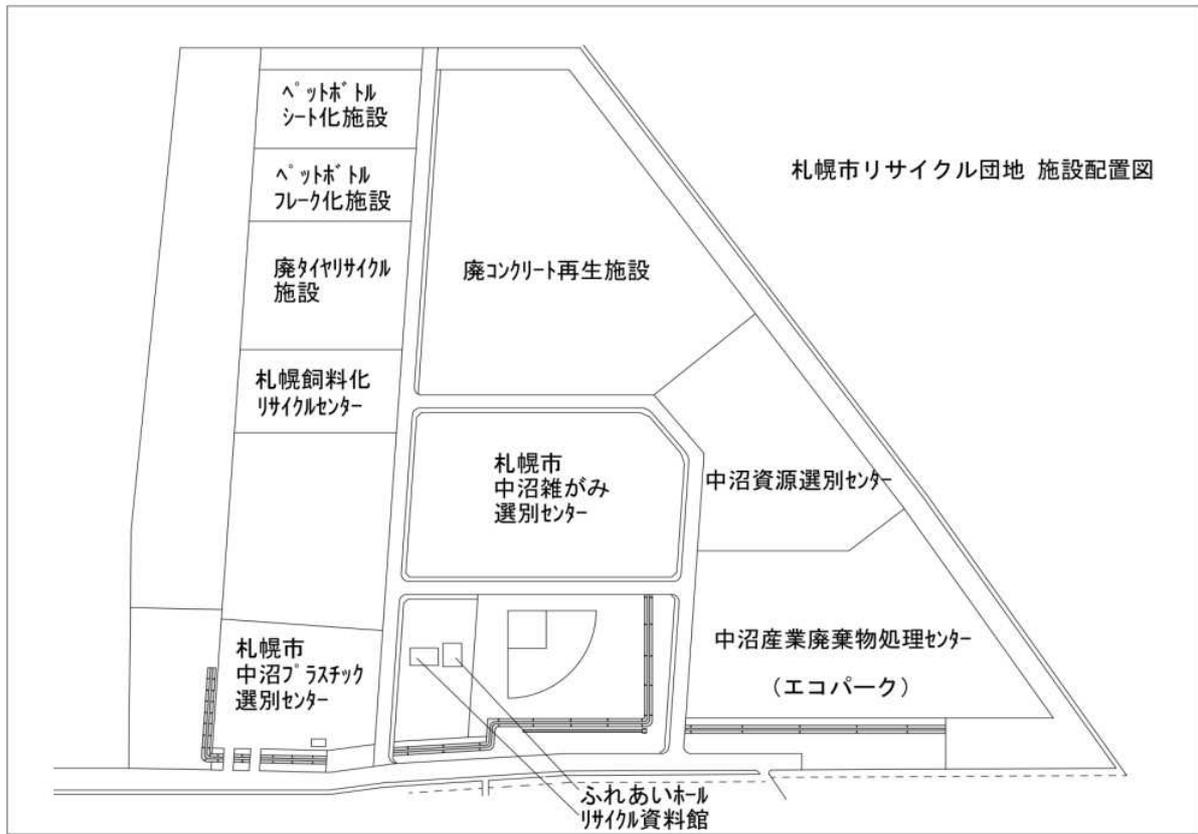
ii) 見学実績

平成27年度のリサイクル団地の見学実績は、件数147件、見学者数3,112人であった。

【表3-1 平成27年度 リサイクル団地見学実績】

	件数	見学者数
4月	10件	119人
5月	5件	43人
6月	14件	570人
7月	19件	558人
8月	14件	183人
9月	16件	430人
10月	24件	293人
11月	23件	722人
12月	4件	78人
1月	9件	73人
2月	4件	4人
3月	5件	39人
合計	147件	3,112人

【図3-7 札幌市リサイクル団地 施設配置図】



(4) 大型ごみ収集センター管理運営事業 (決算額 21,570,240円)

札幌市の大型ごみは、平成9年10月からそれまでのステーション方式から電話申込による戸別収集となり、平成10年1月からは有料制が導入された。

当社は、大型ごみ収集に係る受付から収集までの一連の作業を円滑に行うための総括調整業務を札幌市からの受託事業として実施した。

◇ 業務内容

大型ごみ、リサイクル品の収集受付及び収集作業を円滑実施するための総括調整

- ・ 札幌市及び電話受付業務受託者との連絡調整
- ・ 収集車両台数の調整、未収集物に係る連絡調整
- ・ 電話受付業務受託者が回答困難な苦情・問い合わせ等への対応

◇ 平成27年度実績

- ・ 収集量 11,028 t (計画量: 11,700 t)
- ・ 受付件数 453,290 件 (計画量: 478,000 件)
- ・ 収集件数 313,363 件 (計画量: 330,000 件)
- ・ 収集個数 782,640 個 (計画量: 834,000 個)

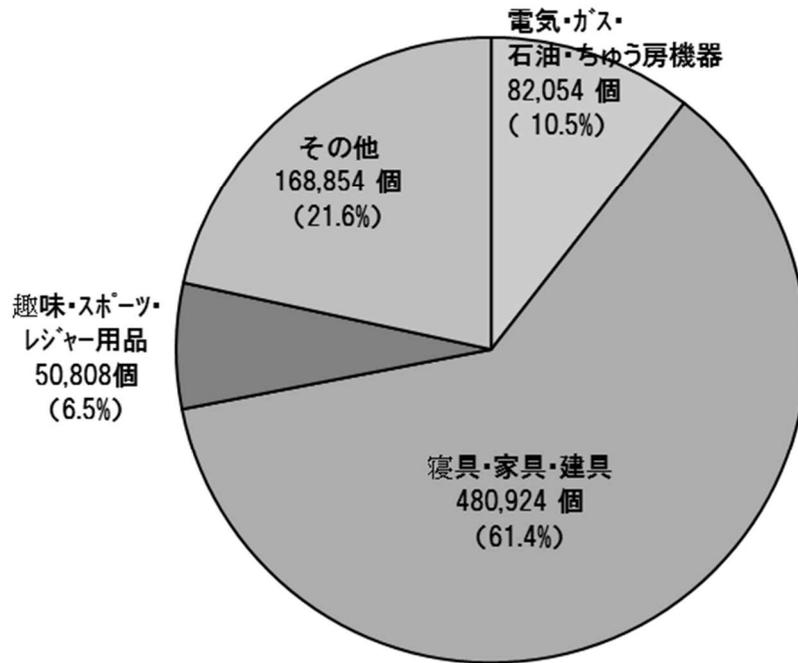
【表3-2 平成27年度 業務実績】

	収集量(t)	受付件数	収集件数	収集個数
4月	1,303	46,429	35,892	93,141
5月	1,006	41,488	28,554	74,299
6月	854	39,402	24,614	61,798
7月	1,052	39,321	30,230	76,137
8月	889	42,087	26,236	64,182
9月	1,023	41,427	28,226	71,915
10月	1,089	43,943	31,552	78,565
11月	934	39,932	25,813	65,499
12月	860	32,525	25,438	59,153
1月	489	22,240	15,390	33,018
2月	526	23,430	14,794	34,711
3月	1,003	41,066	26,624	70,222
合計	11,028	453,290	313,363	782,640

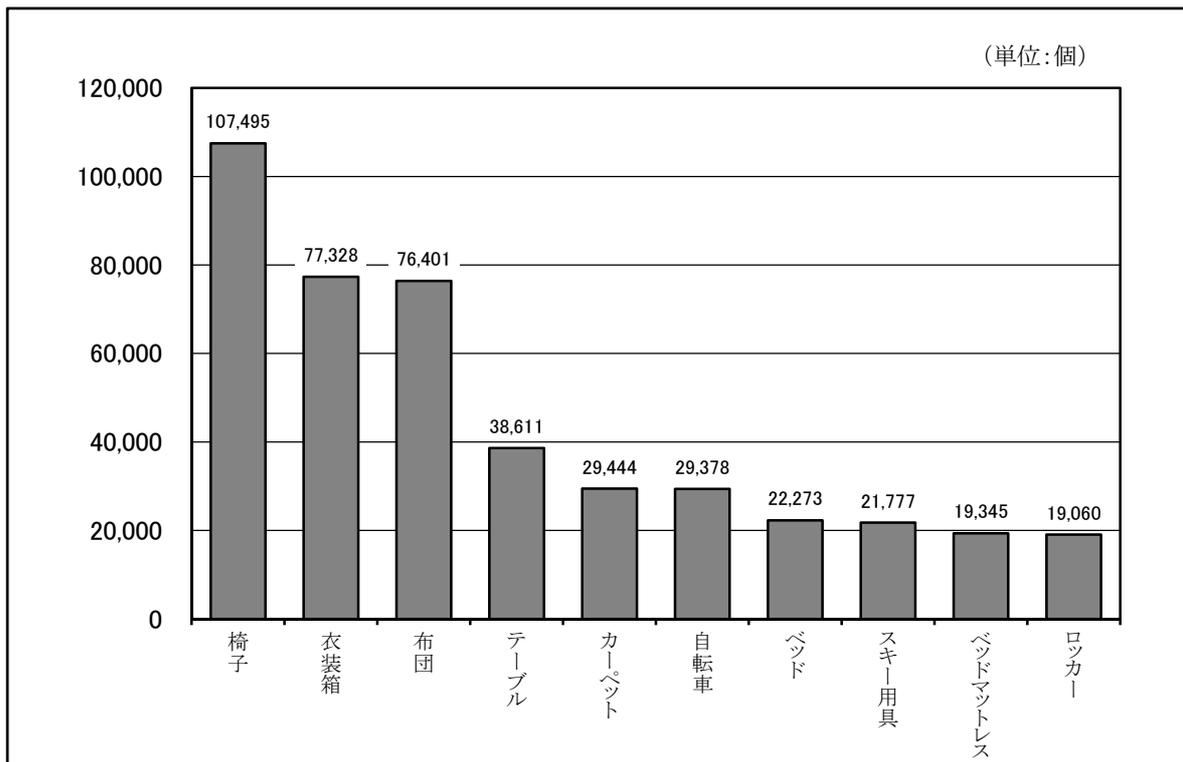
【表3-3 主な収集品目(上位10品目)】

順位	品目	個数	割合
1	椅子	107,495	13.7%
2	衣装箱	77,328	9.9%
3	布団	76,401	9.7%
4	テーブル	38,611	4.9%
5	カーペット	29,444	3.8%
6	自転車	29,378	3.7%
7	ベット	22,273	2.8%
8	スキー用具	21,777	2.8%
9	ベッドマットレス	19,345	2.5%
10	ロッカー	19,060	2.4%

《グラフ 3-13 収集品目大分類内訳》



《グラフ 3-14 主な収集品目（上位 10 品目）》



4 事業系ごみ収集運搬事業 (決算額 6,147,563,571 円)

平成27年度の事業系ごみ収集量(m³)は、前年度実績と比較して、計画では0.7%減を見込んでいたが、実績で0.2%の微増となった。ごみ種のうち、一般ごみ(0.8%)、びん・缶(2.8%)などは増加となったが、資源化ごみ(△3.5%)、生ごみ(△2.3%)などは減少となった。

また、札幌市へ支払う処分手数料等の基礎となるごみ収集重量(t)は、前年度実績と比較して、計画では0.7%増を見込んでいたが、実績で0.2%の微増となった。

次に、重点事業として掲げていた「事業系ごみ収集運搬の効率化」に関しては、平成27年10月に「業務推進室」を新設し、1事業所あたりの収集回数を減らすための方策など根本的な課題の検討を進めるとともに、即効性のある取組みとして収集ルート毎に効率化が即時にできるところについて、検証を進めてきた。その検証の結果、平成28年4月より一般ごみの収集車2台を減車している。

もうひとつの重点事業である「引越しごみ(一時多量ごみ)の対応方法の再構築」に関しては、現状では一般家庭から排出される引越しごみ等一時多量ごみについて、毎日収集できる体制になっていないなど市民ニーズに対応しきれない部分があった。

そこで、札幌市と協議しながら、現行の収集体制の問題点等を整理して、平成28年度内に専用車を配車するなど機動力のある新収集体制へ移行する準備を進めてきた。

平成27年度末現在の伝票収集による契約件数は9,986件、プリペイド袋収集による契約件数は21,733件の合計31,719件となり、前年度から98件減少した。

(1) ごみ収集量について(表4-1、4-2)

① 総収集量

体積では、1,041,990 m³と前年度実績1,040,088 m³に比較し0.2%の微増、重量では、170,286tと前年度実績169,901tに比較し0.2%の微増となった。このうち、「廃棄ごみ」(清掃工場、埋立地へ搬入する一般ごみ)の収集量は、体積で総収集量の79.6%、また、「リサイクルごみ」の収集量は、総収集量の20.4%となった。

② 廃棄ごみ収集量

収集量は、829,162 m³と前年度の822,372 m³に比較し、0.8%の微増となった。

③ リサイクルごみ収集量

i) 資源化ごみ(木くず、紙くず、廃プラスチック類)

固形燃料(RDF)の原料として、ごみ資源化工場へ搬入した。

収集量は、118,409 m³と前年度の122,732 m³に比較し3.5%の減少となった。

ii) 生ごみ

飼料や堆肥の原料として、札幌飼料化リサイクルセンター、南区定山溪及び石狩市の生ごみリサイクル施設へ搬入した。

収集量は49,128 m³と前年度の50,298 m³に比較し2.3%の減少となった。

なお、札幌市教育委員会では、前年度に引き続き、食育教育の一環として、学校給食での残食を一部堆肥化し、その堆肥を利用し契約農家が作付けをしたレタス、とうもろこしや玉ねぎなどを給食メニューに使った「さっぽろ学校給食フードリサイクル」事業を展開しており、市内の

298 小中学校が参加し各リサイクル施設への搬入に協力している。

iii) 不燃用プリペイド袋(資源物・燃やせないごみ専用袋)

不燃用プリペイド袋に混入している、びん・缶、金属などの再生可能な資源物をリサイクルするため、篠路資源化センターへ搬入した。収集量は 26,056 m³と前年度 26,559 m³に比較し 1.9%の減少となった。

iv) 剪定枝

樹木の剪定枝、幹、根など堆肥、畜舎の敷きわら及び燃料チップにリサイクルするため、篠路資源化センター内にある処理施設へ搬入した。収集量は 1,826 m³と前年度 1,191 m³に比較し 53.3%の増加となった。

v) びん・缶・ペットボトル

中沼資源選別センター及び駒岡資源選別センターへ搬入した。収集量は 17,409 m³と前年度 16,936 m³に比較し 2.8%の増加となった。

(2) 家庭用パソコンのリサイクル(回収メーカー不在又は自作パソコン等)

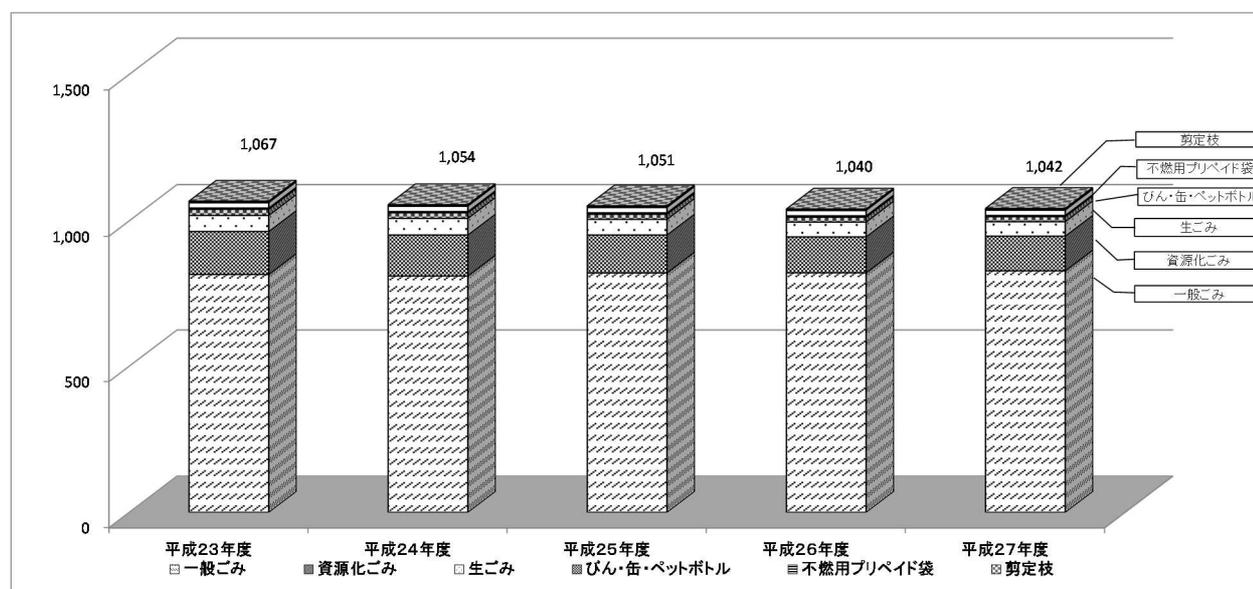
資源有効利用促進法により、家庭系パソコンは、各メーカーが回収しているが、回収メーカー不在や自作パソコン等は当公社で回収している。平成 27 年度は、パソコン本体等 22 台、ブラウン管ディスプレイ等 38 台の合計 60 台と前年度 116 台に比較し 56 台、48.3%の減少となった。

【表 4-1 平成 27 年度 収集量(体積)】

(単位:m³)

項目 月	総量 (体積)	内 訳					
		廃棄ごみ		リサイクルごみ			
		一般ごみ	資源化ごみ	生ごみ	不燃用 プリペイド袋	剪定枝	びん・缶 ペットボトル
4月	87,209	68,646	11,004	3,874	2,278	24	1,383
5月	83,994	66,872	9,483	4,026	1,989	281	1,343
6月	88,029	69,371	10,224	4,271	2,280	317	1,566
7月	90,210	71,480	10,121	4,265	2,356	294	1,694
8月	87,069	70,351	8,664	4,090	2,187	102	1,675
9月	86,397	68,813	9,437	4,287	2,187	127	1,546
10月	91,306	72,630	10,418	4,293	2,206	304	1,455
11月	86,030	68,691	9,504	4,107	1,972	369	1,387
12月	92,963	73,482	10,851	4,699	2,430	2	1,499
1月	78,322	63,400	8,352	3,533	1,878	0	1,159
2月	81,477	65,144	9,229	3,834	1,948	0	1,322
3月	88,984	70,282	11,122	3,849	2,345	6	1,380
合計	1,041,990	829,162	118,409	49,128	26,056	1,826	17,409
26年度	1,040,088	822,372	122,732	50,298	26,559	1,191	16,936
前年比	0.2%	0.8%	-3.5%	-2.3%	-1.9%	53.3%	2.8%

《グラフ 4-1 収集量(体積)の推移》

(単位:千m³)

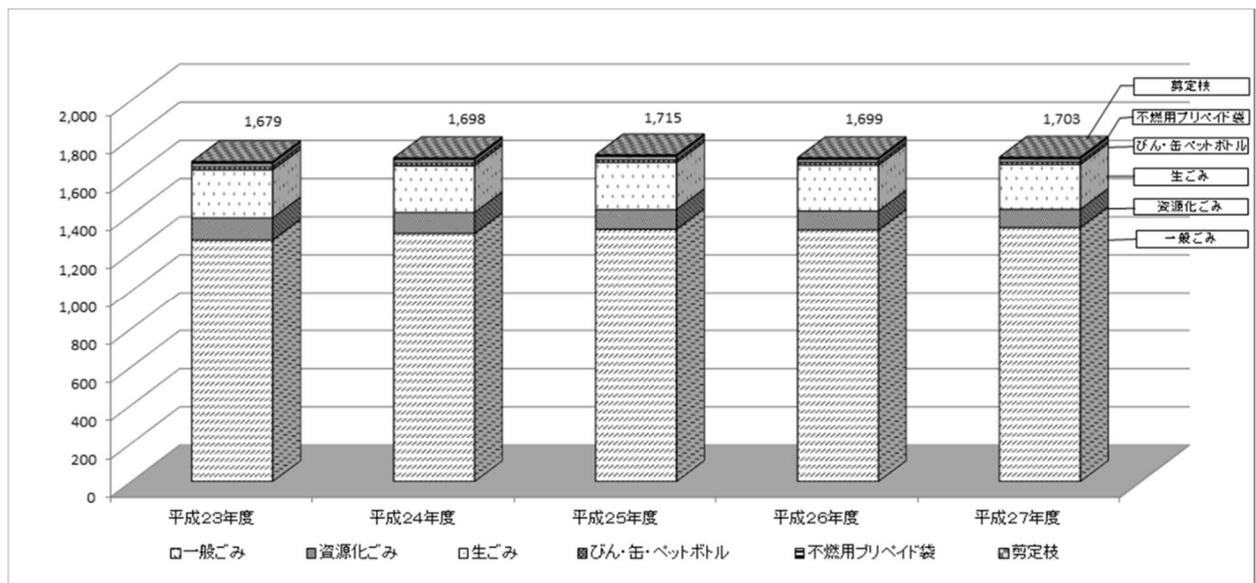
【表 4-2 平成 27 年度 収集量(重量)】

(単位:t)

項目 月	総量 (重量)	内 訳					
		廃棄ごみ	リサイクルごみ				
		一般ごみ	資源化ごみ	生ごみ	不燃用 プリペイド袋	剪定枝	びん・缶 ペットボトル
4月	13,980	10,886	925	1,848	209	2	110
5月	13,674	10,642	726	1,999	178	25	104
6月	14,306	11,057	778	2,120	199	29	123
7月	14,737	11,709	801	1,879	200	20	128
8月	14,663	11,694	693	1,953	186	11	126
9月	14,225	11,041	731	2,137	189	8	119
10月	14,592	11,306	826	2,136	193	19	112
11月	13,980	11,041	748	1,876	177	24	114
12月	15,629	12,086	913	2,255	235	1	139
1月	12,981	10,326	708	1,668	176	0	103
2月	13,166	10,275	743	1,849	179	0	120
3月	14,353	11,335	960	1,728	213	1	116
合計	170,286	133,398	9,552	23,448	2,334	140	1,414
26年度	169,901	132,143	9,898	23,947	2,335	86	1,492
前年比	0.2%	0.9%	-3.5%	-2.1%	0.0%	62.8%	-5.2%

《グラフ 4-2 収集量(重量)の推移》

(単位:百t)



【プリペイド袋の販売】

少量排出事業所向けに、プリペイド方式のごみ袋を店舗等で販売している。

平成 27 年度の販売数は、369,361 セットと、前年度実績の 342,345 セットに比較して 27,016 セット、7.9%増加した。

【表 4-3 平成 27 年度 プリペイド袋販売実績】 (単位:セット)

販 売 店	販売数(セット)	備 考
市 民 生 協	21, 450	25 店舗
セイコーマート	205, 500	325 店舗
すずらん物産	69, 897	-
市庁舎売店等	4, 893	12 店舗
商店街組合等	6, 000	6 団体
宅 配	56, 050	宅配業者
そ の 他	5, 571	公社営業職員持参
合 計	369, 361	

【表4-4 年度別 種類別プリペイド袋販売実績】 (単位:セット)

項 目 年 度	20リットル	40リットル		総販売数
	可 燃	可 燃	不 燃	
平成27年度	13,564	288,662	67,135	369,361
平成26年度	11,930	267,523	62,892	342,345
平成25年度	11,664	267,609	68,924	348,197
平成24年度	13,313	320,651	83,699	417,663
平成23年度	10,721	276,166	68,170	355,057
平成22年度	9,477	265,960	65,068	340,505

(2) 業務管理システムの稼働

事業系ごみ収集運搬事業に係る「事業者管理システム」は更新後 10 年を経過し、老朽化とシステムの不具合が続いたことから、平成 26 年度から新業務管理システムの開発を進め、試験運用を行いながら移行テストを繰り返したうえ、平成 28 年 4 月から本格稼働している。

計画時に約 2 億円を見込んでいた開発費は、概ね 1 億7千万円程度になる見込である。

平成 27 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。